

氏名（カナ氏名）	生江 明 （ナマエ アキラ）
本属	社会開発国際調査研究センター 代表
略歴	早稲田大学大学院政治学研究科日本政治史専攻、修士。日本の農村を歩き、日本政治思想史研究を始めて後、アジア・アフリカの途上国で、戦争災害や自然災害の後のコミュニティ調査、開発調査においてNGO、ODA、国際機関などに関わってきた。1997年から2014年まで日本福祉大学専任教員、2006年から本学で非常勤講師を務める。
専門分野	住民参加を基本とする社会開発の専門家として生計向上・地域コミュニティ・貧困・環境・ジェンダー・ソーシャル・ワークなどの領域で仕事をしてきたが、ベースは政治学・政治哲学であり、ここ5年ほどは地区防災計画という災害と地域コミュニティの関係を専門に見ている。
主要業績・活動経歴等	<p>幕末から現代にいたる日本政治思想史研究を東北地方の農村部の寄り合い文書を訪ね歩き調査研究をしていた30代までと、それ以後対象領域をアジア・アフリカへと転じ、NGOのフィールドでコミュニティ・ソーシャルワークやフェア・トレードの分野に活動を進め、その後、NGO/NPOの事業評価を始め、ODAあるいは国連のフィールド活動のグランドデザインを行うなど活動領域は多岐にわたった。大学の教育においては、学生が考えながら授業を組み立てる、フィールドワーク型のPBL授業を、平和学、政治学、コミュニティ・マネジメント、異文化交流論、NPO/NGO論などで試みてきた。</p> <p>編著『3・11以後を生きるヒント』2012、共著『平和・人権・NGO』2004、編著『学び・未来・NGO』2001以上「新評論」、共著『住民参加型開発フロントライン』国際協力出版会、2003、編著『コミュニティ・マネジメント』日本福祉大学、2002、共著『「市場経済移行期におけるインセンティブ構造変化による中国貧困農村の生態環境破壊メカニズム」および「地域固有社会システムがメカニズムに与える影響に関する研究』』（財）国際開発高等教育機構、2000、共著『アジアの地方制度』東大出版会、1998、共著 <i>Practising Social Work Ethics around the World: Cases and Commentaries</i> (edited by Sarah Banks and Kirsten Nøhr)、published by Routledge、2012ほか</p> <p>以下論文、「統計から見られるジェンダーとコミュニティーカンボジアの村落調査データから」（開発叢書『ジェンダー研究の現在—その多様性と可能性』名古屋大学大学院国際開発研究科、1998）、「地域の子どもたちと大人たちが作る地域の防災・避難訓練の案作り—美浜町布土学区 防災への取り組み」（『日本福祉大学福祉社会開発研究所研究紀要 現代と文化』131号、2015）、「いじめ」=社会的排除の構造—政治学ノート（1）—（『現代と文化』129号、2014）、「“大学において学ぶこと”を考える—フィールド型ソーシャル科目の試み」（『日本福祉大学全学教育</p>

	<p>センター紀要』1号、2013)、「東日本大震災に学ぶ―「想定外」の構造とマニュアル文化の陥穽」(『現代と文化』126号、2012、「日英ソーシャルワークセミナー報告」 「現代のソーシャルワークとその課題」(『現代と文化』123号、2011)、「遊牧型生活様式の歴史的変化に伴う“生計構造の貧困化”メカニズム―ケニア遊牧民地域の開発調査から」(『現代と文化』119号、2009)、「グループ・ワーク型教育論考」(『現代と文化』118号、「乾燥・半乾燥地域論上下一周辺から捉える近代化の意味あるいは近代化と環境論」(『現代と文化』102,103号)、「マイクロクレジットと住民参加型開発 Case Study―バングラデシュ・グラミン銀行の事例から―」(『国際科研報告書』,2000)ほか多数。</p>
<p>リンク URL</p>	<p>http://mihama-w3.n-fukushi.ac.jp/semi/~namae/contents.htm (只今更新中)</p>
<p>担当科目/シラバス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO/NGO 論 ・ NPO・NGO and the future